

## 第 111 回・日商簿記検定試験 3 級 第 1 問 仕訳問題類題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	当	座	預	金	売	掛	金	買	掛	金
仕	入	売		上		受	取	手	支	払	手
備	品	旅	費	交	通	車	両	運	搬	具	所
資	本	金	従	業	員	立	替	金	受	取	手
未	収	金	未	払	金	租	税	公	課	前	受
前	払	金	仮	受	金	仮	払	金	現	金	過
損		益									不
											足

1. 得意先最上商店に対する売掛金 200,000 円を回収し、そのうち 150,000 円は最上商店の得意先である佐竹商店が振り出した約束手形で受け取り、残額は当座預金口座に振り込まれた。
2. 得意先芦名商店に商品 400,000 円を売り上げた。代金のうち 150,000 円はすでに受け取っていた手付金と相殺し、残額は掛けとした。
3. 営業用の自動車に係る自動車税 50,000 円と事業主の所得税 100,000 円を郵便局で現金納付した。
4. 従業員が立て替えていた電車賃 1,000 円現金で支払っていたが、未記帳である事が判明した。なお先日、週 1 回の現金実査を行い、現金過不足勘定の借方に 2,000 円の記入を行っている。雑損または雑益への振り替えは、決算日に行うこととしている。
5. 販売用の事務机 200,000 円と 5 台購入し、代金は翌月支払うこととした。なお、引取運賃 5,000 円は現金で支払った。

・解答

	仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	受取手形 当座預金	150,000 50,000	売掛金	200,000
2	前受金 売掛金	150,000 250,000	売上	400,000
3	租税公課 資本金	50,000 100,000	現金	150,000
4	旅費交通費	1,000	現金過不足	1,000
5	仕入	1,005,000	買掛金 現金	1,000,000 5,000

・解説

1. 売上債権の回収に関する問題です。とても簡単な問題なので、必ず正解を導けるようにしてください。あまりにも簡単すぎるので、特にコメントすることはありません。
2. 売上取引に関する問題です。このような問題は【前受金に関する取引】【掛け売上に関する取引】の2つに分けて考えると、難易度がぐっと下がって分かりやすくなります。

・前受金に関する取引

問題文に「代金のうち 150,000 円はすでに受け取っていた手付金と相殺し」とありますので、売上に先立って手付金を受け取っていたことが分かります。なお、手付金受け取り時の仕訳と、当該手付金を充当する仕訳は以下のようになります。

☆参考・手付金受取時の仕訳

(借) 現金など 150,000 / (貸) 前受金 150,000

★解答①

(借) 前受金 150,000 / (貸) 売上 150,000

・掛け売上に関する取引

これは簡単です。普通に掛売上をした時の仕訳を切るだけです。

## ★解答②

(借) 売掛金 250,000 / (貸) 売上 250,000

以上、①②の仕訳を合算すると解答になります。本問はかなり簡単な部類の問題になりますので、必ず出来るようにしておいてください。

3. 租税公課と資本金の引き出しに関する問題です。この問題は自動車税の支払いと所得税の支払いを分けて考えると分かりやすいです。

まず自動車税のほうですが、これは租税公課勘定を使って処理することになります。租税公課勘定というのは、ざっくり言うと「**会社が負担すべき税金の支払い時に認識する費用科目**」で、損益計算書では販売費および一般管理費の部に表示されます。

本問では問題文に、「**営業用の自動車に係る～**」とありますから、租税公課勘定を使って処理することになりますが、これが営業用ではなく事業主の個人使用の自動車に係る自動車税だった場合は、会社が負担すべき税金ではありませんので、資本金の引き出しとして処理することになりますのでご注意ください。

次に事業主の所得税の支払いについてですが、**本来は事業主が負担すべき税金の支払いを会社が行ったわけですから**、その金額分だけ資本が社外に流出したことになり、資本金を減少させることになります。本問のようなケース以外にも、資本金の評価勘定である引出金勘定を使って処理しておいて、期末に振り替えるという方法もありますので、併せて押さえておいてください。

### ■資本金勘定を使って処理する場合

#### ☆支払時

(借) 資本金 100,000 / (貸) 当座預金 100,000

#### ☆期末時

仕訳なし

### ■引出金勘定を使って処理する場合 (参考)

#### ☆支払時

(借) 引出金 100,000 / (貸) 当座預金 100,000

#### ☆期末時

(借) 資本金 100,000 / (貸) 引出金 100,000

引出金勘定で処理する場合と、資本金勘定で処理する場合の両者の違いは、資本金勘定を使って**直接的に減らす**か、引出金勘定を使って**間接的に減らす**かという点です。間接的に減らした場合は、決算期末において、引出金勘定と資本金勘定を相殺する仕訳が必要になります。

資本金・引出金に関する問題は第 102 回の問 3や第 106 回の問 4、第 107 回の問 2、第 114 回の問 2、第 117 回の問 5、第 122 回の問 1、第 125 回の問 2、第 126 回の問 5、第 127 回の問 5、第 129 回の問 5でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。

4. 現金過不足に関する問題です。日商簿記検定 3 級では、現金過不足勘定を雑益または雑損に振り替える仕訳がよく出題されますが、本問はその前段階の仕訳（現金過不足勘定を計上する仕訳）を問う問題ですので、間違えないように気をつけてください。

まず、問題文の「**雑損または雑益への振り替えは、決算日に行うこととしている**」という記述は、「現金過不足勘定の振り替えに関してはこの問題で考慮する必要はない」という作問者からのメッセージですので、問題文の「**現金過不足勘定の借方に 2,000 円の記入を行っている**」というダミーデータにひっかからないように気をつけてください。

現金過不足に関する問題の解き方をもう一度整理しておきますと・・・期中に現金の過不足が判明した場合（帳簿残高≠実際有高）、**とりあえず現金過不足勘定で一時的に処理**しておいて、理由が判明したものについてはその勘定科目に振り替え、最終的に原因が特定できなかったものについては決算整理仕訳で雑益または雑損に振り替えます。

なお、現金過不足に関する問題は、第 110 回の問 4や第 115 回の問 1、第 117 回の問 1、第 123 回の問 2でも出題されていますから、併せて確認するようにしてください。

5. 仕入取引に関する問題です。本問のポイントは仕入諸掛の処理の方法ですが、仕入諸掛は仕入を行ううえで不可避免的に発生する費用ですので、**仕入原価に含めて処理**することになります。

なお、事務机は販売用として購入したものですから、これに関する未払いについては**買掛金勘定を使って処理**することになりますが、もし仮に、社内で利用するために購入した場合には**買掛金勘定ではなく未払金勘定を使って処理**することになりますので、気をつけてください。

☆参考・社内で利用するために事務机を購入した場合

(借) 備品	1,005,000	／	(貸) 未払金	1,000,000
			(貸) 現金	5,000